

コロナ下の授業取り組み事例

—— A 大学 B 学部（2020年度前・後期，2021年度前期）を中心に——

森 正 明
北 徹 朗

1. はじめに

2019年度1月（2020年）に入り日本中にパンデミックを起こしたコロナウイルス（COVID-19）は、戦後の新制大学の歴史上初めての対応をとらざるを得ない状況を引き起こした。

この状況は現在のほとんどの大学構成員にとって初の体験であり当然のことながら前例を参考に対応することができない事案であることを意味していた。日本中の大学が現在の大学基準などを参考に学生に対してどのような授業提供を行うことが可能なのか、文部科学省（以下、文科省）から示された指針に基づき各々の大学のカリキュラムとの整合性を考慮しながら各々の年度計画を作成して2020年度の授業計画を立案した。

大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについては、文科省の指針などを参考に開講することになった（新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について，2020年5月12日^{1), 2)}。

上記のコロナ下の大学授業，特に正課体育など実技・実習を伴う授業展開は対象である学生の受講環境の違いなど配慮すべき事項があり，模索状態の中で2020年度の授業を開始した。

2. 研究の目的

本研究では，2019年度1月からのコロナ対応の事例について A 大学 B 学部の2020年度前・後

期と2021年度前期の具体的な取り組み事例を中心に上げ、この問題に対する学会や研究会事例も参考にしながら現時点の評価と今後の課題について事例報告を行う。

3. 具体的な取り組み

A 大学B 学部

2020年度

4月のスタート時は、長期にわたるコロナ対応が必要になるという前提ではなく、当面授業の半分にあたる7週間を目途に大学全体で統一の年次計画変更を行った。特別休講期間（2週間）中に、すべての授業の変更点や13専攻の授業実施形態の変更などについて確認を行った。さらに特別措置期間（2週間）では、特別休講期間の検討を踏まえその後実施する授業内容を2週間実施し、webexによるリアルタイム（ライブ）やmanabaを使用した課題提出型の授業提供を行った。

B学部所属の兼任教員に対しては、manabaのコメント欄を使用してシラバスに追記する方法で変更点を記入するよう指示した。B学部では、すでに掲載しているシラバスの書き換えは行わないこととし、変更点のみを追記した。前期7回目の授業にあたる5月末までは、購入しているテキスト「健康スポーツ50講」を用いてmanabaの「レポート」による課題提出型中心の内容となった。この時点で2020年度の前期（春学期）は、12回の授業で実施することが決まったため、実質的には授業内容の変更を行うことを前提としたシラバスを提示（成績評価方法を含む）することになった。

A大学B学部の体育科目は、体育の科学演習（通年2単位：必修）で実施している。A大学は、大学設置基準の大綱化（1991年）以前の1970年代から学部ごとの授業を学部の教員が担当する学部縦割り方式で授業を展開してきた。そのため、今回のコロナ下での授業も全体方針である対面授業やオンライン授業の考え方の統一、4月開始時からの4週間（特別休講、特別措置）以外は、各学部ごとに検討され実施された。2020年度のB学部の前期授業は、教科の違いにかかわらずすべてオンライン授業で行うことになった。

3-1 事例1

体育の科学演習（通年2単位：必修）

前期7回目の授業にあたる5月末までの期間中に、専任教員と兼任教員から実技授業で使用可能なストレッチなどの動画資料や教員作成のオリジナル動画、テキスト内容を説明する音声

付き ppt, 実技に関連した YouTube などの教材提供があったので, 6月からの後半7回の授業については, 各担当者ごとに教材の利用方法は任意としながら実技中心の授業を行った。

これらの授業は, 必ずしもリアルタイム (ライブ) だけではなく (月曜1, 2, 3限, 金曜1, 2, 3限), 授業時間外 (オンデマンド) でも行い, その各々について「レポート」提出も行った。各回の評価は, すべて manaba の「レポート課題」による平常点評価を行ったので, 各回の点数を実施回数分合計して5段階評価 (A, B, C, D, E) とした。

3-2 事例2

前期 (14週) + 集中授業 5日間の授業 ゴルフ (2単位: 必修) テニス (2単位: 必修)

4月開始からの7週は, テキスト中心に授業を行い (オンデマンドを含む), 「健康スポーツ50講」からゴルフとテニスに関係する基礎理論を学ばせた。8週目以降は, 集中授業のためのリアルタイム (ライブ) を毎回行い, コロナ状況の確認もしながら集中授業の準備を進めた。コロナ対応については, 集中授業参加同意書, 健康診断 (心電図を含む), 授業日程 (5日間の検温実施, 練習時間と休息, 「三密」を避けた更衣室の使用法, クラブやラケットの個人使用, 熱中症対策) など通常授業よりも安全対策ができていることを授業で確認し, 事前書類を各家庭に郵送し集中授業態勢を整えた (資料1及び2)。

前期8週目からの授業内容

ゴルフについては, グリップ, スイング幅と飛距離の関係, プロ選手の動画 (YouTube) 紹介などを行い視聴させた。その後は集中授業に向けた作業 (安全配慮のための手続きなどを含む) を行った。シラバスで提示した授業内容は, 変更を行わずにシラバスの予定通りに授業を開始した。ゴルフの日程は, 大学ゴルフ練習場で7月最終週4日間実施し, 8月の1週目に八王子のゴルフ場でゴルフ実習を行う予定とした。大学キャンパスでの実施については, 「密」を避けることを優先し大学の入構基準を遵守して2グループに分けて実施態勢を作成した。ゴルフは8月1週目を実施期間とし通学30分から1時間以内の学生を対象とした (対象者10名前後)。授業準備としては万全の態勢で臨んだが, 7月時点でも大学入構基準の緩和が認められなかったため1回目の中止が決定した。代替案として, 9月3週目にゴルフ集中授業を行うことに変更した。

9月に入りキャンパスの入構基準は緩和されたが3週目のゴルフは, 学生と協議し中止した。オンラインによる大学の健康診断は実施されたがその診断結果が集中授業開始までに間に合わないため, 外部医療機関費用は実費となることなども考慮した。

テニスについては、グリップ、テークバックなどスイング動作との関係、プロ大会のダブルス動画（YouTube）視聴などを行い、その後は集中授業に向けた作業（安全配慮のための手続きなどを含む）を行った。テニスは、長野県菅平高原で4泊5日（8月最終週から9月の1週目）に実施予定とした。しかしながら6月のコロナ状況を判断して大学キャンパスで実施することになった。大学キャンパスでの実施については、「密」を避けることを優先し大学の入構基準を遵守して2グループに分けて実施態勢を作成した。実施期間は、7月最終週とし通学30分から1時間以内の学生を対象とした（対象者10名前後）。こちらもゴルフ授業と同様7月時点の大学入構基準の緩和が認められなかったため1回目の中止が決定した。代替案として、9月2週目にテニス集中授業を行うことに変更した。9月に入りキャンパスの入構基準は緩和されたが2週目のテニスは中止（学部としての判断）。

両種目とも集中授業が中止となったため、実習予定分の7時間程度の授業を「課題レポート」提出による代替措置をとり授業を終了した。

3-3 事例3

2020年度 後期

B学部は、後期から語学（オーラルを含む）、体育など実習を伴う教科は対面で実施し、13専攻の基礎演習（各専攻ごとに学生報告などを実施する基礎専門科目）など1年次必修授業も可能な範囲で対面授業を実施することが決定された。

後期の1, 2回目はmanabaを利用してリアルタイムの授業を行い詳細確認を実施した。体育実技は、「対面」と「遠隔」のいずれかを学生に選択させることになった。コロナの状況は、少し改善されてきたが通学時間やコロナ感染が心配で移動したくない学生は遠隔を選択、後期も地方の自宅にいる学生なども遠隔の授業を希望したため、対面でテニスを実施するグループ（60%）と遠隔のグループ（40%、manabaを使用）に分けて授業を実施した。

授業に対する「評価レポート」を提出した学生のコメントは、対面授業と遠隔授業のどちらの授業もリアルタイムの実技に対して好意的な意見が多かった。動画配信も良いがその日の「生の声」を求めている傾向があり、画面を通しての指導や質疑の重要性が確認できた。特別授業（2020東京オリパラ組織委員会の出前授業）は、オリパラの周辺環境への理解が深まりレポートを通した質問もあったので、後日授業のまとめで組織委員会メンバーのキャリアパスについて、多くの委員は五輪後、別の仕事へ転職するなどの事例を紹介した。B学部の2020年度「学生による授業評価」は、例年通り実施し各々の教員に担当授業の結果をフィードバックした。しかしコロナ対応などこれまでの授業と比較する「授業評価」結果がないため全体評価については、

教務委員会や教授会などで参考事例を中心に概要報告をして終了した。

3-4 事例 4

2021年度 前期

B学部の基本方針は、可能な限り「対面授業」に戻して実施することになったが、WiFi環境や大人数の授業に対応する教室が不足しているため、200名以上の履修者登録を考慮してオンライン授業への変更も検討し、授業担当者に連絡後変更手続きを行った。

2021年度もコロナ対応の配慮が必要なため、対面授業に自宅から参加できる「ハイブリッド授業」の機材を教室に設置した。これにより、学部教室の対面者と遠隔者が同時進行で授業に参加することが可能となった。しかし体育実技は、「ハイブリッド授業」が不可能なため2グループ（対面と遠隔）に分けて実施した。2021年度の4月からは、開講科目の約半数はキャンパスで対面授業を行い、残りの半数は、オンラインでmanabaやZoomなどによる授業を行うことになった。オンライン授業は、（1，7，13回目）の3回をリアルタイムで実施し、他の11回は動画や資料配信型などのオンデマンド中心の授業内容となった。これを受けて対面授業の3回（1，7，13回目）はキャンパスでの対面を実施しないこととし、manabaによる授業を行うことになった。2021年度の授業方針については、授業開始までに兼任教員との意見交換会を2回実施し、詳細な確認を行った。

2021年度からのB学部の体育は、カリキュラム改革により体育の必修単位が実技（半期1単位）となった。講義科目については、学びのパスポートプログラム「スポーツ文化」^{注1)}の開設に伴い「スポーツ科学概論（旧体育講義）」、「スポーツ教育論」「野外教育・防災教育演習」など演習4科目を含む計14科目の増コマとなった（演習科目は、実技・実習を含む）。体育実技の開講時間は、これまでの前後期、月曜（1，2，3限）金曜（1，2，3限）の12時間体制から月曜（1，2限）金曜（1，2限）の8時間体制に変更となった。

4月開講時もコロナ対応の配慮が必要なため体育実技は、毎回前日からの健康チェック（資料3）をmanabaに掲載し授業開始までに提出する確認を行った。2021年度は、入学式や入学後のガイダンスなども対面で実施できたこともあり2019年度の入学時に戻った取り組みから始めることができたが、4月に入り「緊急事態宣言」が発出されたこともありB学部の体育は2週間（2回）manabaによる授業に切り替えて実施した。2021年度も後半7回の授業は対面授業中心で実施ができたが、宿泊を伴う夏季シーズンコースの実施はできなかった（7月のコロナ対応配慮のため）。

4. 考 察

2020年度からのコロナ対応による授業実施の取り組みは、前例のない対応を強いられ暗中模索の中で大学構成員が工夫を重ねてきた事例である。

今回の授業事例も現段階で学生に提供できる内容を、2020年度よりも2021年度さらには2022年度に向けてより良い授業を提供できることを目指して取り組んできた。

これらの視点からこの2年間の授業事例を振り返ると、2020年度は、テストケース（初めての授業内容の試行期間）という位置付けであったといえる。特に実技の実施方法については、「密」を避けるためのコート内人数をどうするのか、マスクの着用はどうするのか、更衣室の使用方法の変更など多方面にわたる改善や変更を行い実施している現状である。今後もこれらの授業配慮は継続していくことになる。

実技内容の具体的な取り組みについては、今回は一つの事例に過ぎないので他大学事例や研究会、学会等での報告を参照し、カリキュラムや学生の実態や履修者数、教場環境等に応じてアレンジして行くことが求められる（資料4）。

例えば、北ら（2020）は日本におけるコロナ第1波とされる期間（2020年3月～6月）に発出された初の緊急事態宣言（4月7日～5月25日）期間において、全国の大学生2219名に対し、運動、食事、睡眠、日常生活、大学生生活等の調査を実施している。この調査速報は、2020年6月13日にZoomでオンライン開催された「WEBセミナー：コロナ時代の大学体育」で紹介され、これからどうなっていくのか先が見えない中で、多くの大学体育教員が参照し特に後期のカリキュラム開発に向けての質問など多くの問い合わせが寄せられた。この調査報告は『緊急事態宣言下の学生の健康とスポーツに関する調査』として、大学体育116号（2020年12月）に掲載された。北らは、その後も「WEBセミナー：コロナ下で大学体育は如何に対応し成果を得たか」（2020年8月）で、全国的にオンライン授業を行わざるを得なかった2020年度前期の状況を概観し、「WEBセミナー：大学体育のニューノーマル」ⁱⁱ²⁾（2020年9月）では、武蔵野美術大学の事例と各教場・種目のガイドラインを示した。そして2021年1月の「WEBワークショップ：コロナ下の学生の健康と教養体育が果たした成果」では、オンライン授業継続大学やフィジカルディスタンスや用具の消毒など感染対策を徹底させた授業展開を経験した2020年度を振り返り、2021年度での授業に向けての糸口を探るとともに、新しい大学体育についても議論が重ねられている。

種目や状況に特化した具体的なティーチング事例として、真夏にマスク着用で運動をするこ

とへの懸念が報じられていたことなどから、北・森（2021）は屋内外の様々な体育実技で収集したマスク表面温度のデータをもとに『サーモグラフィーによる体育活動中のマスク内温度上昇の評価——熱中症予防教育のための資料収集——』（第29回日本健康教育学会学術大会（2021年9月11日～12日，オンライン開催）講演集，p.117）を報告した。おそらく，大学教養体育授業における，マスク着用と熱中症リスクに関して，授業現場で実測した報告はこの研究以外には行われていない。また，一般社団法人大学ゴルフ授業研究会は，コロナ下によってデジタル化が急速に進む状況を踏まえ，『ゴルフ授業における Learning over Education』（大学ゴルフ授業シンポジウム2021）を開催し，大学教養体育授業において開講種目としてその数が上位であるとされているゴルフ授業について検討した^{3),4),5)}。

今後は，こうした報告事例なども参考にB学部に対応した授業内容を検討し授業に生かしていくことも重要である。その他B学部の2021年度から2022年度に向けた変更点の一つは，今年度オンライン授業で3回（1，7，13回目）しか認めていなかったリアルタイム（ライブ）が毎回可能になったことである。B学部以外では，対面，オンライン共にリアルタイム（ライブ）は可能であったが，他の学部に比して教室を利用した対面授業数が多く，オンラインのリアルタイム授業への移動その他WiFi環境教室の不足などがその理由であった。この点についてもほぼ改善が図られたので，次年度は，対面，オンライン共にリアルタイム授業が可能になった。A大学全体の中で体育実技の取り組みは，他の教科と比べると実技を中心にした内容展開のため，対面授業が中心となっている。この2年間の授業実践の中で配慮してきた多くの事例は教室授業にも参考になる点が多々ある。例えば教室内での学生報告時の発表者とその他の学生との「密」を避けた配置や着席間隔や机の向きや配置などの配慮も授業実践事例として学部内外で共有していくことは重要であるといえる。

5. まとめと今後の課題

この2年間の振り返ると，パンデミックに翻弄され続けた期間であったといえるが必ずしもマイナス面ばかりではなかった。

例えばコロナ対応としての「三密」への配慮は，キャンパス移転後40数年を経過したA大学の多くの教室の机と椅子などの取り替えによるレイアウト変更が図られることにつながった。この結果，大学施設の安全面や使いやすさなど機能面の充実につながった点も多々ある。しかしながらこの時期に入学した現2年生と1年生は，キャンパスライフという「大学文化」に触れる機会が減少し，授業以外の課外活動への参加も停滞してしまった。さらに教職員の関係も

いわゆる "face to face" の機会が大幅に減少した。

今後のコロナ対応は、with コロナをベースとして取り組んでいくことになると考えられるが、この2年間に大きく変容した大学の運営形態を今後どのようにしていくのかという大きな課題をかかえている。大学の主役としての存在は学生であることを再認識して、今後の授業方法など前向きな議論を重ねてより良い授業を提供していくことが求められている。

注

注1) B学部では、2021年度から13専攻を横断する学びのパスポートプログラム(社会文化系とスポーツ文化系、50名定員)を開始し学生自身が履修モデルを考えて得意分野を極めていく領域を開設した。

注2) 2020年(令和2年4月7日)に発出された「緊急事態宣言」を契機として古い日常(オールドノーマル)、ITを活用した生活様式の変容などを新しい日常(ニューノーマル)と表現している。2020年8月11日、内閣官房報告書『ニューノーマル時代のITの活用に関する懇談会最終報告書』<https://www.cas.go.jp/jo/seisaki/newnormalit/index.html>(参照日2022年2月4日)

参考文献

- 1) 文部科学省(2021) 新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について。 https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00016.html (参照日2021年12月26日)。
- 2) 文部科学省(2020) 大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査。 https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf (参照日2021年12月26日)。
- 3) 公益社団法人全国大学体育連合(2020) 大学実技授業と新型コロナウイルス感染症対策について 大学体育 No.116. pp.6-18.
- 4) 北徹朗・小林勝法・難波秀行(2020) 緊急事態宣言下の学生の健康とスポーツに関する調査 大学体育 No.116. pp.9-13.
- 5) 北徹朗・森正明(2021) サーモグラフィーによる体育活動中のマスク内温度上昇の評価—熱中症予防教育のための資料収集— 第29回日本健康教育学会学術大会(2021年9月11日~12日 オンライン開催)講演集 p.117.

(資料1)

2020年度 ゴルフ実習要項

日程：(1) 2020年8月3日(月)～8月5日(水) 片道1時間対象(10名)

- (1-1) ガイダンス 2020年7月25日(土) 13:30集合学部教室
* ゴルフ場実習 8月6日(八王子カントリークラブ, 予定)

(2) 2020年9月16日(水)～9月19日(土)(4名)

(2-2) ガイダンス 2020年9月16日(11:00～ 男女)

- * (1) については, 多摩キャンパスから片道1時間の通学者のみ(上記)
(2) については, ゴルフ場実習なし.

*事前配慮事項

健康診断証明書(大学健康診断に準ずる項目のチェック) 1通
保護者の同意書(同居家族構成やコロナの現状への配慮) 1通
(上記, 書類はガイダンス時に直接提出)

*当日の配慮事項

自宅での検温(37度を上限に体調不良を感じる学生は参加しない事)
大学到着後のスケジュール(下記)

-----14:00-----15:00-----18:30-(19:00駅)

- 1.8/3 集合(健康チェック) 練習(ターゲットバードゴルフ, ミニゴルフ)
2.8/4 集合(健康チェック) 練習(打ちっ放し, ショートアイアン中心)
3.8/5 集合(健康チェック) 練習(練習と簡易ゲーム, ロングアイアン)
* ゴルフ場実習のためのミーティングを含む(集合, 解散の確認など)

-----11:30-----12:15-----13:15-----17:00-(17:30駅)

- 1.9/16 (男子健康チェック, ガイダンス) 女子(健康チェック, ガイダンス)
* ガイダンス終了後, 解散(男女共)文学部教室
2.9/17 集合(健康チェック) 昼食 練習(ターゲットゴルフ)
3.9/18 集合(健康チェック) 昼食 練習(ショートアイアン)
4.9/19 集合(健康チェック) 昼食 練習(ターゲットゴルフ試合中心)

持ち物: 学生証, 健康保険証, 筆記用具, 帽子, 運動着(着替え用含む)

(資料2)

2020年度 テニス実習要項

日程：(1) 2020年7月27日(月)～7月29日(水) 初心者, 初級者(10名)

(1-1) ガイダンス 2020年7月25日(土) 11:00集合 学部教室

(2) 2020年9月7日(月)～9月10日(木) (18名)

(2-1) ガイダンス 2020年9月7日(初日, 午前中)

* (1) については, 多摩キャンパスから片道1時間の通学者のみ(上記)

(2) は, その他の学生が対象, 18名

*事前配慮事項

健康診断証明書(大学健康診断に準ずる項目のチェック) 1通

保護者の同意書(同居家族構成やコロナの現状への配慮) 1通

(上記, 書類はガイダンス時に直接提出)

*当日の配慮事項

自宅での検温(37度を上限に体調不良を感じる学生は参加しない事)

大学到着後のスケジュール(下記)

---13:30-----14:30-----18:00- (18:30駅)

1.7/27 集合(健康チェック) 練習(初心者, 初級者, ミニテニス)

2.7/28 集合(健康チェック) 練習(ミニテニス中心)

3.7/29 集合(健康チェック) 練習(練習と簡易ゲーム) 解散

---11:00---11:30-----12:15--13:15-----17:00- (17:30駅)

1.9/7 集合(健康チェック, ガイダンス) 昼食 練習(経験者Tと初級T)

2.9/8 集合(健康チェック) 練習 昼食 練習(シングルス)

3.9/9 集合(健康チェック) 練習 昼食 練習(シングルス, 試合)

4.9/10 集合(健康チェック) 練習 昼食 試合(ダブルス含む) 解散

5.9/11 予備日

持ち物: 学生証, 健康保険証, 筆記用具, 帽子, 運動着(着替え用含む)

（資料3）

A 大学 B 学部の実技用（健康チェック）

対面授業参加者への質問票

この1週間のあなたの体調・健康状況等について質問します。以下の1～6に挙げた内容を確認し、1つでも該当する場合には「該当する」を、すべてに該当しない場合には「該当しない」を選択してください。

1. 平熱を超えるような発熱がありましたか？
2. 咳，だるさ（倦怠感），息苦しさなどの症状はありましたか？
3. 臭覚や味覚に異常を感じたことはありましたか？
4. 同居家族や身近な知人などのなかに，新型コロナウイルスへの感染が疑われた人はいましたか？
5. その他，新型コロナウイルス陽性と診断された人との接触はありましたか？
6. 政府から入国制限，入国後の観察期間が必要とされている国・地域等への渡航又は当該在住者との接触がありましたか？

《回答》1.1

1. 1. 該当する
2. 2. 該当しない

今朝，検温したところ37.5℃以上の発熱があった。あるいは，37.5℃未満であっても明らかに平熱を超える発熱がある。または，からだに異常がある。

《回答》1.2

1. 1. 該当する
2. 2. 該当しない

次の2点について，内容を確認したうえで，回答してください。

1. 対面授業の受講にあたっては，担当教員の注意や指示を守り，自他の安全確保につとめます。
2. 参加後に，万一体調不良や新型コロナウイルスへの罹患が疑われる症状が出た場合には，速やかに担当教員に報告します。

《回答》1.3

1. 1. 同意しない
2. 2. 同意する

※以上の3つの《回答》において，ひとつでも“1”が選択されている場合，

【対面授業に参加することはできません】

以上

(資料4)

九州地区大学体育連合春期研究会 (2021.3.13.) (Zoom) 開催
『COVID-19影響下での大学体育授業実践』

企画趣旨 (概要)

コロナ下において「自宅の部屋でできる体力トレーニング」、「ソーシャル・ディスタンスを保って行うスポーツ」、「オンラインでの運動スキル評価」などこれまでほとんど考えることのなかったことを考えながら実践してきた。限られた時間の中で様々な可能性を視野に入れながら新しい形態の授業を試みてきたその実践内容を報告していただき討議したい。

当日、三部構成で各大学の実践事例を報告し、その後討議を行った。

- (一部) 九州大学, 福岡大学, 九州産業大学の事例
- (二部) 熊本学園大学, 別府大学, 九州保健福祉大学の事例
- (三部) 中央大学, 武蔵野美術大学, 東北大学の事例